

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 7 月 27 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	田島夏子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
東京都御蔵島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
御蔵島周辺に生息するミナミハンドウイルカの個体識別調査及びペア遊泳行動の観察
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 6 月 18 日 ~ 平成 26 年 7 月 18 日 (30 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
御蔵島観光協会 小木万布
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の渡航は、以下のような日程で行った。 6/18 夜 東京竹芝港発 6/19 朝 御蔵島港着 調査準備 6/20-7/17 個体識別調査 7/18 調査引き継ぎ 京都着
<p>本渡航の目的は、1994年から御蔵島で行われている御蔵島周辺に生息するミナミハンドウイルカの個体識別調査を行うことであった。調査は、商業イルカウォッチング船に同乗させていただき、計47回の出航を行った。調査は、イルカ発見に伴い、入水し、イルカの群れを水中ビデオにて撮影した。総撮影時間は1210分であった。撮影の様子は、写真1の様である。</p> <p>調査期間前半は、海況が良く出航回数も伸びたが、後半は前線と台風の影響によりうねりが入り込み海況が悪化したことにより出航数が減少したので、全体的にはほぼ例年並みの出航数であった。</p> <p>出航しない場合は、陸上で撮影した映像の解析を行った。撮影した映像をパソコン上で再生し、映像に映っている個体のヒレや体表面の傷やカケなどの自然標識から、調査開始時から御蔵島観光協会に蓄積されている各個体の特徴のデータと照らし合わせ、個体識別作業を行った。個体識別作業の様子は写真2の様である。識別作業が完了した映像は8出航分、計160分の映像であった。調査期間中に、新たに2頭の新生児とその母親を確認した。また、2頭のメスが新生児を同伴して泳いでいる様子も確認した。今後の映像の解析によって、この2例が新たな新生児と母親であるのか、ベビーシッティングであるのを明らかにする。</p> <p>また、各個体のDNA情報を得るために、水中で排フンが見られた場合は、その個体を撮影又は目視で個体識別を行い、フンを採取しエタノール処理を行った。調査期間中に採取した糞サンプルは26サンプルであった。</p> <p>今後は、まだ未解析の映像データを解析し、個体識別すると共に、自らの研究テーマであるペアスイムの有無の記録も行う予定である(写真3)。複数個体と同じ方向に近接して泳いでいる場合をペアスイムとし、その際のペアを個体識別し、胸ビレで相手の体をこするラビングや体の一部分を接触させながら泳ぐコンタクトスイム、また呼吸が2秒以内の時間差で同期する同調呼吸などの社会行動の有無を記録する予定である。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真1 水中ビデオ撮影の様子（撮影：藤里美奈子）



写真2 個体識別作業の様子



写真3 群れ遊泳中のペアスイム個体（右2個体）

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

6. その他 (特記事項など)

ウォッチング船に快く乗せてくださった船頭、ガイドの皆様に深く感謝いたします。調査への激励、協力をいただいた御蔵島の皆様にも心からお礼申し上げます。